ART KISS LETTER

熊本市現代美術館 アート・キッスレター

2017 初夏 vol.81

坂本夏子さん（出品作家）

高橋龍太郎さん（コレクター）、坂本さん、宮永さん

宮永愛子さん（出品作家）

巻頭言

現代美術とマインドフルネス ― 高橋コレクションの宇宙

精神科医、高橋龍太郎氏は、１９９０年代後半から日本の現代美術のコレクションを始め、その数はすでに２５００点を超えています。その数だけでなく、集中的に収集された作品の質の高さを見ると、公立美術館では到底かなわない稀有の偉業ということができます。この約10年間に、国内の各地で高橋コレクション展が開催されてきました。それは各々の美術館に合わせた独自の構成が特徴となっています。熊本市現代美術館でのタイトルは「高橋コレクションの宇宙」でしたが、今まで「ミラー・ニューロン」、「ネオテニー・ジャパン」そして「マインドフルネス」等ユニークな専門用語が展覧会名に使われてきました。とりわけ「マインドフルネス」という言葉については、このところ日本でも何種類もの本が書店に並び、話題となっています。

「マインドフルネス」は、仏教経典にある「サティ」の英語訳で、自身がもつ価値基準や判断を排して、今の瞬間に直面することを認識することです。この言葉が現代美術を体験するキーワードとして取り込まれた背景には、新しい時代のアートを、先入観や偏見のない眼差しで見てほしいという高橋氏の願いが込められています。

ところで本年行われる国際美術展のカッセル・ドクメンタ14は、ドイツのカッセルとギリシャのアテネの2会場で開催されます。4月に行われたアテネの開会式典で、今回の芸術監督であるポーランド人アダム・シムジクは、「皆さんが知っていることのすべてを忘れて、この展覧会に臨んでほしい」と挨拶しました。既存の知識や価値観を念頭から捨て、作品と対峙してほしいというものです。これこそマインドフルネスであり、まさに高橋氏が彼のコレクションの鑑賞者に望むことと共通します。マインドフルネスは、現代美術を理解するだけでなく、環境変化の激しい現代社会を生き抜くための有効な手段となるでしょう。

熊本市現代美術館館長　桜井武

Contemporary Art Museum, Kumamoto

NEXT EXHIBITION
2017.6.24［土］―9.3［日］
三沢厚彦 ANIMALS in 熊本

CAMK
www.camk.or.jp

MUSEUM INFORMATION

2017JAN-APR

第28回熊本市民美術展　熊本アートパレード

審査員講演会

2017.1.28

第28回「熊本アートパレード」審査員のヤノベケンジさんを迎え、審査員講演会を開催しました。前半は、展覧会総評や、受賞作品についてお話しいただきました。出品者の方は、メモを片手に熱心に講評を聴かれていました。

後半には、ヤノベさんのこれまでの活動についてスライドを交えて紹介。作品制作の原点ともなった大阪万博に関する話題や、国立国際美術館で行われた個展の映像、当館の収蔵品《アトムカー》についての解説、自身の父親が関わった「トらやん」誕生秘話について、また作家自ら取材を行った岡本太郎の《太陽の塔》の緊張感あふれる映像など、たくさんの貴重な映像に笑いも交えつつ、楽しくご紹介してくださいました。（K・O）

【参加人数40人】

CAMKコレクション展Vol.5

「CAMKコレクション展Vol.5 知っとるね？くまもとのお宝大公開てばい！」開幕

2017.2.18-3.26

本展では、熊本市現代美術館のコレクションには、当館での展覧会開催をきっかけとして新たに制作された、もしくは最新作として初公開されたという点で、熊本ゆかりの「くまもとのお宝」級とも言うべき作品が数多くあることをこの15年の美術館史を振り返りつつ紹介しました。出展作品としては、マンガ、テキスタイル、日本画、油彩画、版画、写真、映像、立体作品など多岐にわたる、現代美術ならではの多様な表現の作品を62点出品。すべての作品は、熊本地震で被災しているため、コンディションチェックも重要なテーマでした。もうひとつのテーマとして「本当のくまもとのお宝とは何か？」を掲げ、震災の記憶を重ねながら「われら、花園を愛おしむ」「われら、天を望む」「われら、世間に生きる」の3つのゾーンに分け、出品作品の特徴・魅力に迫りました。また新規収蔵の生人形《花嫁生人形》（女優シャーリー・テンプル旧蔵）、安本亀八（3代）《三歳女児利子像》も初公開しました。（H・T）

月曜ロードショー上映報告

毎週月曜日14時・17時より　無料

上映リスト（1／16～4／3）

1月16日『野田ともうします。』2010・11年　テレビドラマ　99分
1月23日『ながらえば』1982年　テレビドラマ　65分
1月30日『ソフテン！』2014年　日本映画　85分
2月6日『あん』2015年　日本＝フランス＝ドイツ映画　113分

（第42回ヒューマンライツ・シアター
主催：熊本市人権啓発市民協議会・熊本市　共催：熊本市現代美術館）

2月13日『幼獣マメシバ　望郷篇』2014年　日本映画　96分
2月20日『クリーン』2004年　フランス＝イギリス＝カナダ映画　111分
2月27日『珈琲とエンピツ』2013年　日本映画　67分　＊日本語字幕付き
3月6日『トップ・ハット』1935年　アメリカ映画　99分
3月13日『ナージャの村』1997年　日本＝ベラルーシ映画　118分
3月20日『HAZAN』2004年　日本映画　108分
3月27日『グーニーズ』1985年　アメリカ映画　114分
4月3日『オズの魔法使』1939年　アメリカ映画　101分

プレママ&ファミリーツアー

2017.2.25

CAMKコレクション展のプレママ&ファミリーツアーを開催しました。今回は4組のご家族の方にご参加いただきました。

「花園」から始まる本展、色とりどりの作品の間をファミリーが歩く姿は、ピクニックのようです。子どもたちは、不思議な音が出る作品に「こわーい」と言いながらも興味津々で、音に合わせて声を出しながら楽しんでいました。当館や熊本にゆかりのある作品も多く、学芸員からの裏話に親御さんは興味深く聞き入っていらっしゃいました。大人も子どもも「くまもとのお宝」を存分に味わっていただけたようでした。（A・M）

【参加人数9人】

CAMKレクチャーカレッジ

2017.2.26

「お宝」をテーマとしたコレクション展から見えたもの：地に足を付け、天を望む」というタイトルのもと、企画学芸員による講演を行いました。

始めに展覧会タイトルについて、「知っとるね？」の語り手は誰か、「お宝」とは何か・どのような作用を及ぼすものか、について触れました。続いて、年度最後の展覧会ということで、年度始まりに起きた2016年熊本地震からの館の再開、館の活動のなかで考えたことが展覧会内容に反映されていることについて触れ、本展企画を通じて気づいた最も重要な発見として、震災直後から多くの方にご来館いただいている姿から、大震災という非常時に「美に触れる」ことを選択する人々の心こそが、「くまもとの宝」なのではないかと考えるようになったことを紹介しました。

後半では、会場構成や各出品作品のみどころを紹介しながら、今後約10年かけて収蔵全作品の被災状況チェックを行うこと、地震を経験したことで、当館がより一層、質の高い日々の生活や文化活動の拠点となれるよう職員一同団結・奮起していることについて触れました。

（H・T）

【参加人数23人】

チャリティーオークションアイテム展示会

2017.2.9-3.6

一般財団法人mudefとの共催により「くまもとエンタメ支援金チャリティーオークションアイテム展示会」を開催しました。mudefでは、中田英寿さんやMr. Childrenの桜井和寿さん、B'zの松本孝弘さんなど、著名なアーティストやタレントからゆかりのアイテムを提供いただき、熊本地震支援チャリティーオークション「mudef Charity Market」を開催。当館ではそのアイテムを公開展示しました。オークションの収益は「くまもとエンタメ支援金」へ寄付され、地震で甚大な被害を受けた熊本市内の文化ホールの早期復旧と、熊本市が主催するコンサートなどの復興イベントの費用に活用されます。（K・M）

CAMKコレクション展 Vol.5

2017.3.5

稲原豊命&田中栄一 アーティストトーク「写真とは何か?」

コレクション展出品作家の稲原豊命さんと田中栄一さんに「写真とは何か?」というテーマでお話しいただきました。お二人が写真の道に進んだきっかけから、今回の出展作品はどのような背景があって撮られたものなのか、熊本地震の発生からもうすぐ1年を迎えるにあたって思うこと、お互いの作品について語る……など、盛りだくさんな内容となりました。

元々は画家志望だったという田中さんのエピソードには会場中から驚きの声が。絵画とは違う写真の良さに惹かれ、さらには「これを撮りたい!」と強く思うような被写体(風景)との出会いがあったとのこと。

印象的だったのは「今、写真にはデジタルとフィルムと大きく分けて2種類があるけれど、それをどう使い分けているのか?」という質問に対して、稲原さんが「デジタル写真が普及してみんなが簡単に写真を撮ることができるようになったけれど、やはりじっくりと時間をかけて撮るフィルム写真の良さにはかなわない」とお答えされていたことです。長く第一線で活躍されている写真家の、フィルム写真に対する大きな愛を感じました。(K・M)

【参加人数38名】

2017.3.19

小谷元彦 特別講演会「生人形は近代彫刻に逆襲できたか?」

先進的な表現の彫刻作品によって国内外で高い評価を受けている小谷元彦さんは、生人形についてもたいへん興味を持ち、当館・熊本へ作品調査に足を運んでいます。今回のコレクション展での新規収蔵生人形お披露目を記念して、彫刻家・美術家の視点から、生人形そして近代日本彫刻についてご講演いただきました。

最初に、生人形が興行では遠くから眺められるものとして、身振りや表面が明確で記号化されているものであることに触れ、目的別に生人形に求められたものが異なることを指摘しました。さらに、「彫刻」という明治の新設造語に、高村光雲や光太郎すら悩まされてきたこと、高村光太郎と萩原守衛によるロダンへの傾倒と光太郎の脱却、そして平櫛田中や佐藤朝山、橋本平八など独自の表現を追究した作家を紹介。改めて生人形にある「内圧性」(内側からの凸部の張り感)という特徴が仏像表現に通じ日本的であることを指摘しました。最後に七彩工芸のマネキンに触れ、FRPでの制作、人体を型取りしたリアルマネキンなど、最先端の技術や発想を次々と製品に反映した先進性や迫真性が生人形へと繋がる点を示しました。「美術」というジャンルで捉えがたい「生人形」の魅力について深い考察力と制作者ならではの視点によって切り込む刺激的な内容の講演会でした。(H・T)

【参加人数60人】

近代彫刻と生人形の違いや日本での彫刻の捉え方など、新しい発見ができました。生人形の服の下を初めて知ることができ、驚きました。マネキンにも生人形とのつながりを感じ、生人形が生み出した影響力を見ることができました。(アンケートより)

高橋コレクションの宇宙

2017.4.8-6.11

「高橋コレクションの宇宙」開幕

4月から始まった展覧会「高橋コレクションの宇宙」では、精神科医・高橋龍太郎氏によって収集された1990年代以降の日本の現代美術のコレクションをご紹介しています。高橋コレクション展としては16回目を数える本展は、本格的にコレクションが始まった1997年から2017年現在に至るまでの20年間で2500点を超える規模になったコレクションから選ばれたものです。草間彌生、会田誠、村上隆、チームラボ、森山大道、名和晃平、石田尚志といった36作家約120点の作品からは、日本の現代美術の多様な拡がりがうかがえます。

開会式には、高橋龍太郎氏を始め、出品作家の坂本夏子さん、宮永愛子さん、関係者の方々にご出席いただきました。(M・I)

2017.4.8

坂本夏子アーティストトーク「絵の話」

展覧会初日、出品作家の坂本夏子さんによる「絵の話」と題したアーティストトークを開催しました。高校時代の話から、美術教育への疑問、絵と自分の回路が繋がった体験、絵の世界に触るという感覚、三次元を二次元にする際の歪みの方法など、絵を描くにあたり坂本さんがこれまでどのような体験をして、制作に取り組んでいるかを聴くことができました。絵でしか表せない空間への坂本さんの探求的なアプローチはとても興味深く、トーク中にはその思考の断片を描いたスケッチもご紹介いただきました。絵に対する様々な要素が散りばめられた今回のトークは、坂本さんの制作過程を垣間見るようにも思えました。(M・I)

【参加人数67人】

2017.2.22-3.20

今田淳子 HIGO・ROCK! HIGO・ROCCA! 第5弾 肥後椿公開

熊本在住の現代美術家・今田淳子さんによる肥後六花プロジェクト「HIGO・ROCK! HIGO・ROCCA!」の第5弾、肥後椿を公開しました。この作品には、昨春に一般公募して市民の皆さんにご寄贈いただいた古着物が素材の一部として使用されています。(募集は終了しています)

カメリア(椿)とは、ココ・シャネルも魅了された花であり、西洋でも広く愛されていますが、本作は一輪の肥後椿がぽたりと地面に落ちたような優雅な作品です。今回は素材に木材も使用されており、表面に細かく刻まれた彫りの表情も魅力的です。また、作家からは作品鑑賞にあたってさらに想像が広がるような詩も寄せられました。(H・T)

本シリーズの作品は、以下の展覧会で全点公開されます。

「開館15周年記念 誉(ほまれ)のくまもと展」

会期:2017年9月16日(土)ー11月26日(日)

くまもと詩の朗読の会共催の自作の詩の朗読会です

詩の朗読会

2017.1.26

詩の朗読会　第156回

テーマ「パレード」

今回のテーマは「パレード」。9名の方々が詩を詠まれました。パレードがやってくる前の心躍るような気持ちを表した作品、熊本のお祭をイメージした作品、さらには「非日常のオンパレード」であった昨年を振り返った作品など、1つのテーマから様々な方向へと思考が広がっていく回となりました。また、冬にまつわる紙芝居を披露してくださった方もおられました。紙がめくられる瞬間に息を凝らして見つめてしまうのは、大人になっても変わらないのですね。この日は飛び込み参加の方が1名。中原中也の作品とオリジナルの詩を一遍ずつ読まれました。（K・M）

【参加人数9人】

2017.2.23

詩の朗読会　第157回

テーマ「コレクション」

開催中のコレクション展にちなんで、今回のテーマは「コレクション」。飛び入り参加4名を含む11名の方に詩を詠んでいただきました。素敵な名前のついた色鉛筆を集めたというご自身の経験から、色のコレクションについての詩を作ってくれた方。自分のコレクションは言葉だとお話ししてくれた方。「初恋」や「思い出」など、記憶がコレクションだという方もいらっしゃいました。さらには、自分の画集や好きな絵画についての詩を作ってこられた方もおられ、美術館ならではの内容となりました。（K・M）

【参加人数11人】

2017.3.23

詩の朗読会　第158回

テーマ「鳥（酉）」

今回のテーマは、今年の干支の「鳥（酉）」。6名の方が詩を発表しました。私たちにとって身近な「鳥」ですが、くちばしの鋭さから少し恐いというイメージ、羽ばたく鳥へのあこがれなど、様々な角度からイメージが広がりました。宮沢賢治「よだかの星」に寄せた詩や、野鳥の会での活動、七面鳥に名に由来する植物「七面草」、鳥からの目線で描かれた詩などが詠まれました。また、地震被災地への思いを詩にして力強いエールを送られた方もおられました。（Y・M）

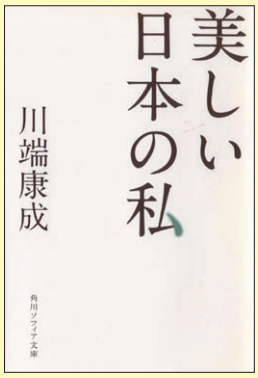
【参加人数6人】

ホームギャラリーからのお便り

ホームギャラリーから
おすすめの一冊をご紹介します

VOL.32

『美しい日本の私』



『美しい日本の私』著者:川端康成
出版:角川学芸出版　2015年

川端康成氏は日本人初のノーベル文学賞受賞者。本書は、その記念講演「美しい日本の私」を中心にした随筆集で、和歌や俳句などを引用しながら美と日本文化について語られています。川端氏は一貫して美を求め続けた作家です。本書は全体的に難しい内容にも思われますが、ありふれた身近なものに美の存在を発見できる川端氏の感性の鋭さを感じることができます。ハワイで見た朝のガラスコップの光ひとつをとっても、川端氏には、それがハワイの日のかがやき、海の色、木々のみどりなどを象徴する美しいものに見え、それは「生涯、わたくしの心にあるだろう」と記しています。他にも、ほとんどの花は眠らない、というわかりきった事実に初めてはっきりと気がついた時、それを「なお美しく感じられた」とも述べています。普段何気なく見ているものでも、少し考え出すと色々なことに疑問を覚えたり、より魅力を感じたりと、この本を読むことによっていつもの日常が変わって見えてくる、そんな一冊ではないかと思います。ぜひ川端氏の「美」に対する思いを感じてみてください。（A・T）

美術館ボランティアCAMKEES（キャンキーズ）による活動紹介

CAMKEESの活動

2017.02.18

CAMK読みがたり　第89回

テーマ「きらきら」

2月の読みがたりのテーマは「きらきら」。テーマに合わせ、キラキラと反射する素材が使われた絵本『にじいろのさかな』や、雪の結晶を収めた写真の絵本『きらきら』、ポップアップする雪の姿が楽しいしかけ絵本『雪の結晶』などを紹介しました。同じ雪でもそれぞれ違った視点から展開される物語に子どもたちも興味津々でした。手遊び「トントントントン」は、グーにした手をいろんなものに見立てる手遊び。1回目は「トントントントン こぶじいさん♪」だったところが、2回目からは「トントントントン こぶじいさん…ぽろっ」と見立てたものに異変が…。子どもたちはきゃっきゃと大喜びで楽しんでくれました。（K・O）

【参加人数15人】

2017.3.18

CAMK読みがたり　第90回

テーマ「ぽかぽか」

3月のテーマは「ぽかぽか」。あたたかいお布団に、ぽかぽかのお日様。お出かけしたくなるような絵本などが読まれました。絵本『おひさまぽかぽか』は、縁側でおばあさんが寝ていると、あくびをしながらネコやニワトリ、色んな動物たちが集まってくるお話。心地よい陽気が伝わってきました。シフォンあそびでは、ポケットの中からオレンジ色のシフォンが飛び出しました。ひらひらさせて手を放すと、シフォンがキラキラしたお日様のように優しく子どもたちにかぶさりました。他にも、紙芝居『ポンコちゃんとおひなさま』や絵本『のせて』をご紹介しました。手あそび『お皿にお箸にぼたもち団子』では、みんなで楽しく手を動かしました。（Y・M）

【参加人数8人】

2017.4.15

CAMK読みがたり　第91回

テーマ「みんな元気」

4月のテーマは「みんな元気」。詩『へびいちのすけ』のお話から始まり、絵本『みんなにこにこ』では、てんとう虫が散歩の途中に色々なお友達と出会うお話です。その他にも『それはすごいなりっぱだね！』『のはらにね』の絵本をお届けしました。シフォンあそびでは、黄色いシフォン布を間近で楽しみ、パネルシアター『「ぽ」のおはなし』ではみんなで一緒に歌いました。そして手袋人形のお花さんも登場。子どもさんが好きなお花の色を言うと、そのお花さんがほっぺに「チュ」とあいさつしてくれました。（A・T）

【参加人数24人】

子どもたちのためのイベントを開催しています

街なか子育てひろば

2017.2.16

2月ワークショップ「親子でアートを楽しもう」

2月の子育てひろばのワークショップは、講師に現代美術作家の今田淳子さんをお迎えして、「親子でアートを楽しもう」を開催しました。これまで、紙やお米、小麦粉など、様々な素材でアートを楽しんできた本シリーズ。今回は絵の具を使った「色で遊ぶ」ワークショップを開催。

初めに、色んな国の風景写真から世界のたくさんの「色」を鑑賞しました。中国の山、鉱物の色。チベットの曼荼羅。ペルーやモスクワの街の色。その国ごとの色の美しさが感じられる写真で、小さなお子さんも「きれいだねー」とお母さんと会話していました。

ワークショップでは、赤・青・黄の絵の具と紙、スポンジ、スポイトなどのセットが用意されました。まずは、ビニール袋の中に入った絵の具をもみながら感触や色を楽しみました。水を加えると、一つの色から濃い色、薄い色に変化していきます。次にスポイトで紙の上に落とすと、3つの色が交じり合って橙、緑、紫、たくさんの色ができて、にじむような色合いも素敵な絵になっていました。他にも、手形をつけたり、トイレットペーパーの芯をスタンプにして花の形の模様を押したり、マスキングテープを貼った上から絵の具を重ねてはがしたりと、いろんな技法に挑戦しながら、お家に飾りたくなるような色とりどりの絵が完成しました！お子さんもお母さんも夢中になっている姿が印象的でした。（Y・M）

【参加人数32人】

2017.3.16

3月ワークショップ「親子ふれあい遊び」

今回は、子育て支援サークル「ぷらんこ」さんから4人の先生をお招きして「親子ふれあい遊び」を開催し、20組の親子にご参加いただきました。ゆび人形遊びの「ぴっぴとちっち」に始まり、絵本『きれいなはこ』の読み聞かせ、パネルシアターなど色々な遊びを楽しみました。子どもさんの顔を優しく触れるわらべ歌や、膝にのせて一緒に動く「せんたく」といった、親子のペアで触れ合う遊びは、お家でもできそうなものばかり。歌や手あそびでも、お母さんと一緒に声を出して楽しみました。いろんなことに興味が出るお年頃。歩けるお子さんが多かった今回、先生が「目が届く場所にお母さんが移動してくだされば、お子さんは自由に動いて大丈夫ですよ」と声かけがあり、お母さんたちも安心して子どもたちとのびのび楽しめたようでした。（A・M）

【参加人数40人】

アートバス・アウトリーチ

2017.2.8

CAMKアートプログラム「陶芸ワークショップ」（田迎南小）

田迎南小学校で、6年生のみなさんと陶芸ワークショップを行いました。講師は陶芸家の田口和代さんです。今回作るのは手びねりのカップ。まずはプロジェクターで田口さんの手元を見ながら、作り方を教わります。粘土が配られると、いよいよ制作がスタート！意気揚々と作業に取りかかった子どもたちでしたが、粘土を広げすぎてお皿のようになってしまったり、穴があいてしまったりと、思った以上に大変だった模様。それでも田口さんの丁寧なアドバイスによって、無事みんなの作品ができあがりました！（K・M）

【参加人数83人】

展覧会や季節にあわせたコンサートを開催しています

ミュージック・ウェーブ

2017.2.10

小野リサ 復興支援コンサート

日本のボサノバ界の第一人者である小野リサさんをお迎えした「小野リサ復興支援コンサート」がホームギャラリーで開催されました。この復興支援コンサートは、KBC（クマモトボッサ＆ジャズクラブ）によるプロジェクトで、小野さんにぜひ熊本へ来てほしい！という熊本側のメッセージと、小野さんの想いが重なり実現しました。

コンサートは「黄昏のビギン」からスタート。小野さんの歌声で、会場はほっと安らぐような雰囲気に包まれていきます。「赤坂の夜は更けて」や「恋のバカンス」などの曲に続いて、各地の曲を巡る〝音楽の旅〟が始まりました。イタリアやアメリカ、そして、ブラジルの曲のメドレー。ピアノ、フルート、サックスの心地よい音色が響きました。アンコールには、希望にあふれるような「いのちの歌」。そして、「イパネマの娘」では、伸びやかで、囁き、弾むような小野さんの素敵な歌声に心が癒されました。笑顔で楽しむ人や涙ぐむお客さんの姿があり、音楽が日常の中で心に寄り添っていることを実感するようなコンサートとなりました。（Y・M）

【参加人数 130人】

主催：KBCプロジェクト（クマモトボッサ＆ジャズクラブ）
協賛：くまもと音楽復興支援100人委員会

2017.2.25

第20回CAMKピアノコンサート

当館で活躍しているピアノボランティアさん4名による、春のピアノコンサートを開催しました。「コンソレーション第二番」や「愛の夢」、「子犬のワルツ」などのクラシックの名曲は気持ちを華やかにさせてくれ、CMで一躍有名になった「海の声」や唱歌の定番「故郷」では会場中がしみじみとした雰囲気に包まれました。（K・M）

【参加人数44人】

芸術文化出張講座

講師のアーティストとともに美術館をとび出し、学校などで実演やワークショップを行っています。

日付	学校名〔学年・参加人数〕	内容	講師
1.17	田迎小〔4年生76名〕	現代邦楽C	松下知代　ほか
1.26	一新小〔4年生70名〕	民謡と邦楽WS	田中祥子　ほか
2.22	城西中〔1, 2年生135名〕	弦楽アンサンブルC	岩井宏司　ほか

現代邦楽C

民謡と邦楽WS

WS…ワークショップ　C…コンサート

2017.3.8

音楽劇

「リトル・ツリー」上演

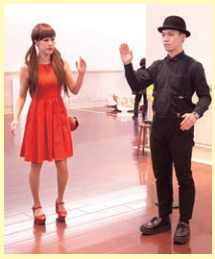
熊本市出身の絵本作家、葉祥明さん原作の音楽劇「リトル・ツリー」が上演されました。森に生まれた幼い木「リトル・ツリー」が、山火事に遭いながらも、森のみんなと支え合いながら成長する姿を描いた物語です。「私は私になる」という難しいテーマながら、ピアノやヴァイオリン、ドラム、パーカッションなどの生演奏も加わり、世代を超えてお楽しみいただきました。このイベントは、「震災によって心に傷を負った子どもたちを、歌と踊りで支えることができないか」と、ミュージカル俳優として活躍中の土器屋利行さんを中心に立ち上げられたプロジェクトで、多くの方のご協力により、益城町飯野小学校・御幸小学校など、熊本市内の小学校を中心に約1週間8か所で巡回公演されました。傷つきながらも多くの仲間に支えられ前を向く「リトル・ツリー」の物語にふさわしいプロジェクトとなったようでした。（K・O）

【参加人数100人】

2017.3.12

STREET ART-PLEX KUMAMOTO

大道芸2017



ストリートアートプレックスの「大道芸2017」が開催されました。今年の現代美術館会場では、マネキンアートユニットのsho_maaと、クラウンのサムくんとメロンちゃんが登場。また、パフォーマンス開始に先立ち、アートプレックスではおなじみのロービング・パフォーマー、un_paさんが会場にやってきてくれました！全身銀色でロボット（宇宙人？）のようなun_paさんが館内を回遊するのを追いかけて、たくさんの人たちが集まりました。

館内が多くの方で賑わう中、sho_maaのパフォーマンスが音楽とともにスタート。いつもは絵の中で暮らしている2人のマネキンが現実に飛び出すと、会場が不思議な空気に包まれます。お客さんが近づいていくと、マネキン式の動きでバッグからカードやキャンディを取り出してプレゼントしてくれました。

2組目のサムくんとメロンちゃんは、バルーンアートやハンカチのマジックで会場を楽しませました。ビーチボールのスイカ割りでは、いたずらをしたサムくんと怒ったメロンちゃんの追いかけっこが繰り広げられ、お客さんを巻き込んでのパフォーマンスに会場中がどっと笑いであふれました。（Y・M）

【参加人数120人】

2017.3.17

アートキャラバンくまもと

ヤマカズが贈るミニコンサートinCAMK

熊本随一の公共ホールとして市民のみなさんに親しまれている県立劇場は、今回の熊本地震を受け、被災された方々の「こころの復興」を音楽や演劇によって支えていくために「アートキャラバンくまもと」という演奏家派遣型アウトリーチやワークショップを行っています。今回はその一環として、世界的指揮者として知られているヤマカズこと山田和樹さんと、フルート・ピッコロ奏者の西田紀子さんが、当館ホームギャラリーでミニコンサートを開催してくれました。

宮沢賢治が作詞作曲した「星めぐりの歌」から演奏はスタート。優しいメロディラインは私たちの心をぽっと温めてくれます。さらに、熊本の代表的な民謡として有名な「五木の子守唄」や、武満徹の「死んだ男の残したものは」など、思わず口ずさんでしまいそうなポピュラーソングが続きます。そして、ヴァイオリンの難曲と言われるパガニーニの「24の奇想曲」を西田さんがフルートで演奏。まさに超絶技巧といえるその技に、会場中が息をのんで見つめていました。

曲の合間には、ヤマカズさんが軽快な語り口で音楽へのこだわりや音の豆知識を披露してくださいました。

「1つ1つの演奏は旅である」というヤマカズさん。今回のコンサートもあらかじめ曲目だけ決めておき、曲順はその場で決めるというユニークなものでした。また、譜面を見ないことで自由になれるというお話や、西田さんが解説してくださった「差音」と呼ばれる現象についてのお話も興味深いものでした。

コンサートは大盛況のうちに幕を下ろし、お二人の奏でるやわらかな音色は、まるで春の陽気のように私たちを包み込んでくれました。（K・M）

【参加人数120人】

2017.3.19

第8回オハイエくまもとっておきの音楽祭

「第8回オハイエくまもと とっておきの音楽祭」が熊本市の街なか9カ所で同時開催されました。「みんなちがってみんないい」が合言葉のこの音楽祭。現代美術館会場では、14組のグループが出演し、ホームギャラリーから聞こえる素敵な音色に多くの方が足を止めて聴き入っていました。様々なジャンルの曲がピアノやフルート、ヴァイオリン、ギターなどで演奏されました。「ジブリメドレー」では、ジャズアレンジされた曲がピアノやトーンチャイムのやわらかな音で奏でられ、心が和らぎました。4時間にわたるコンサートは、たくさんの人たちが音楽を楽しみ、音楽でつながるようなひとときとなりました。（Y・M）

【参加人数150人】

2017.3.25

STREET ART-PLEX KUMAMOTO
Great Composer Memorial Series

ベートーヴェン＋ドビュッシー＋ラフマニノフ

偉大な作曲家の命日を記念するグレート・コンポーザー・メモリアル・シリーズ。今回は、ベートーヴェン、ドビュッシー、ラフマニノフを愛する7組の演奏家たちによるコンサートを開催しました。それぞれが思い入れのある曲をピアノや歌で披露し、その背景には曲をイメージした様々な写真がスクリーンに映し出されました。そして、今回は東京よりピアニストの浦壁信二さんをゲストにお招きしました。浦壁さんは、ベートーヴェン「バガテル変ホ長調Op.33-1」、ドビュッシー「前奏曲集から『亜麻色の髪の乙女』、『花火』、ラフマニノフ「練習曲集『音の絵』から変ホ短調Op.39-5」などを披露され、鮮やかな演奏にお客様も聴き入っていました。（Y・M）

【参加人数120人】

Visitor's letter

アンケートに寄せられた感想（抜粋）を紹介します

第 28 回熊本市民美術展　熊本アートパレード

■子供から大人まで参加できるアートパレードはどれも見ごたえがあり、たいへん刺激を受けました。また見に来たいです。（市外30代女性）

CAMK コレクション展 Vol.5
知っとるね？くまもとのお宝、大公開てばい！

■豊かな作品群に癒されます。地元のことをより知ることができました。嬉しいです。掲示してある解説の着眼点が面白くてつい見入ってしまいました。（市内10代女性）

■子どもには本物に触れてほしいと思っていたのでいい機会でした。もう少し大きくなったら理解してくれるかなと思っています。（市内30代女性）

3.11 → 4.14-16　アート・建築・デザインでつながる東北⇔熊本

■アートの力で人の心を動かし、元気を作ることが実感できた。自然の力という絶対的なものに、人間だからこそ創り出せる発想や力で、乗り越えられる気がしました。（市内40代女性）

編集後記

「今ごろ！？」なのかもしれませんが、電子書籍を使い始めました。まだ基本的にはパラパラとめくれる紙書籍の方が好きですが、スマホひとつでいつでも読み出せるのは使ってみると便利。そして何冊あっても場所を取らないのが一番ありがたいところかと。そのうち展覧会カタログもデジタルが当たり前になるのでしょうか。

ちなみに電子版といえば、AKL も実は美術館 HP に PDF 版が公開されています。バックナンバーもとり揃えていますので、こちらもぜひご利用くださいませ。

編集長　佐々木玄太郎

地震から一年が過ぎました。地震前後では個人的にも様々なことが重なって起こり、慌ただしかった一年間の記憶は半年分ほど空白の感覚があるのに、体感的には濃く長い時間を過ごしたような気がします。困難の多い年ではありましたが、当館では多くの方々の支えにより、様々なイベントを開催することができました。また昨年度は、どの展覧会でも例年以上の来場者数があり、文化は人の心を温めるということ、美術館が地域に根付いてきていることを実感しました。

担当　大田黒翔代

AKL

ART KISS LETTER

vol.81

［執筆者一覧］＊原稿の文末にイニシャル表記
兼城昌山（S・K）［書道家］
冨澤治子（H・T）［熊本市現代美術館主任学芸員］
坂本顕子（A・S）［熊本市現代美術館主任学芸員］
池澤茉莉（M・I）［熊本市現代美術館学芸員］
岩崎美千子（Mi・I）［熊本市現代美術館学芸員］
丸吉ゆかり（Y・M）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
大田黒翔代（K・O）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
村上綾（A・M）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
三浦和紗（K・M）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］
手嶋彩香（A・T）［熊本市現代美術館学芸アシスタント］

ART KISS LETTER アート・キッスレター
vol.81初夏号（2016年6月）　【無料】
発行人：桜井武
編　集：佐々木玄太郎　大田黒翔代
デザイン：石井克昌（MOTOSHIKI）
印　刷：シモダ印刷
発　行：熊本市現代美術館
http://www.camk.or.jp
〒860-0845　熊本市中央区上通町2-3
電話 096-278-7500　FAX 096-359-7892
【次号は夏号（2017年8月発行予定）】

2016年度は美術館入場者数が過去最高を記録しました。これからもよろしくお願いします！

ART DE GYAN
アート・どぎゃん

熊本弁で「アートはどうなの？」という意味です

第17回洛神書作展

アートスペース大宝堂
熊本県熊本市中央区上通町5-6
☎096-354-2155
2017.3.8-13

森山淡草さんが指導した書のグループ展。37名が38点を展示した。森山さんは、金文で「天地に遊ぶ」をピンク色のマットに大らかで変化に富む線質でうまくまとめて、さすがである。「燭（ともしび）」の近代詩文書も筆のタッチのうまさを見せている。緒方龍生さんの「行草書」も達筆さを見せている。早崎和子さんも春のピンク色の紙にマッチした用筆のうまさを見せていた。作品は、一字書から楷・行・草体をはじめ、篆・隷書・近代詩文書と墨象以外の全書体が書かれて明るくまじめによく努力している姿が見られる会場となっていた。（S・K）

SANNINTEN

てんでん舎
熊本市中央区練兵町45 早野ビル1F
2017.3.11-13

ちわしるこ、ゆきまる、252％という3人の若きイラストレーターによる「春」をテーマにした展覧会。彼らは同じ大学でデザインを専攻した先輩・後輩であり、それぞれ普段から自分の作品をSNSにアップするなどして積極的に創作活動を行っている。会場に入ってまず目に飛び込んできたのは、縦の長さが3メートルほどあろうかと思われる3つの大きなタペストリーだ。3人がそれぞれポピー、チューリップ、マーガレットの花をモチーフに選び、新しい季節を迎えた男女の姿を描いている。その他にもこれまで彼らが描いてきたイラストが並び、そのやわらかでみずみずしい色合いには、これから何かを始めようとする人たちをそっと後押しするようなパワーを感じられた。

道端に咲く花、小鳥や猫などの動物、人がふとしたときに見せる表情など、3人の作品には生きとし生けるものの「一瞬の輝き」を描いたものが多くある。それはきっと、彼らが身の回りの景色を注意深く、そして優しいまなざしをもって観察しているからではないかと筆者は考える。ぜひ一度、彼らの目になって世界を見てみたいものである。（K・M）

ギャラリーⅢ（GⅢ）は、熊本、九州のアーティストを紹介し、応援していくスペースです

GⅢ

GⅢ-vol.115　3.11→4.14-16　アート・建築・デザインでつながる東北⇔熊本

2017.3.1-4.30

GⅢ-vol.115

「3・11→4・14-16 アート・建築・デザインでつながる東北⇔熊本」開幕

熊本地震のメモリアル企画としてギャラリーⅢ・井手宣通記念室で開催した本展では、くまもとアートポリスの「みんなの家」、慶應義塾大学SFC坂茂研究室、熊本大学 田中智之 研究室らによる「避難所用・紙の間仕切りシステム（PPS4）」、日比野克彦「ハートマーク・ビューイング」、村上タカシ「宮城熊本伝えるアートプロジェクト」、遠藤一郎「未来龍熊本大空凧」の5つのプロジェクトを紹介しました。初日には、下通で日比野さんによる「ハートマーク・ワークショップ」も開催され、多くの方が参加しました。（A・S）

2017.3.1

オープニングトーク

「東北⇔熊本」展の開幕イベントとして、プロジェクトの実践者によるトークを開催しました。PPS4より田中智之さん（建築家／熊本大学工学部准教授）、ハートマーク・ビューイングより日比野克彦さん（アーティスト／東京藝術大学教授）、宮城熊本伝えるアートプロジェクトより村上タカシさん（アーティスト／宮城教育大学准教授）をお招きして、それぞれのプロジェクトについてお話を伺いました。

田中さんは、熊本地震後にPPS4を活用した支援の中心となるよう依頼を受け、研究室の学生たちとともに尽力されてきました。PPS4で使った紙管の再利用など、熊本で生まれたアイデアもご紹介いただきました。KASEIプロジェクトでは、熊本の仮設住宅のパートナーとして、環境の整備やコミュニティづくりの支援を始めているとのことで、注目すべき熊本の仮設住宅の今後についてもお話しいただきました。

ハートマーク柄のマグネットを被災地に届ける、というアイデアは、日比野さんの「自分で行くのではなくて思いを届けるにはどうしたらいいか」という考えから生まれたとのことでした。展示会場のハートマークを眺めていると、この日比野さんの考えとアイデアがばっちりマッチしていることが実感できました。

村上さんは八代出身で宮城在住ということもあり、熊本地震後いち早く支援のため現地に足を運び、さらに宮城で取り組んでいた「おしるこカフェ」を熊本でも始めるなど、ゆるやかなつながりを生むプロジェクトを継続させています。

どのプロジェクトも、東北や熊本の地震を経て、人に寄り添い、実践を重ねてきたものだからこその展開が見られました。東北の経験がつながり熊本が勇気づけられたように、熊本での経験も「未来の被災地」を勇気づけるのだと気づかされるトークとなりました。（A・M）

【参加人数25人】

2017.3.4-4.9

遠藤一郎「未来龍熊本大空凧」凧作りワークショップ

「東北⇔熊本」展関連イベントのひとつ、未来美術家・遠藤一郎さんの「未来龍熊本大空凧」ワークショップを行いました。遠藤さんは「未来へ号」というワゴン車に乗って全国を旅する未来美術家で、全国さまざまの場所で願いを込めた連凧を大空に届けるプロジェクトを行っています。当館でこのワークショップを行うのは、約5年ぶり。今回は4月15日の凧あげに向けた凧作りワークショップが6回に分けて行われました。3月25日には遠藤さんもワークショップに登場し、アーティスト直伝の凧作りが行われました。参加者は、オレンジ色のビニールと竹ひごで凧を作り、仕上げに夢や願いを書いていました。ワークショップ中には、「今、夢凧の収穫どれくらい？」「10です！」、「生凧いくつ？」「16です！」、「夢凧100個ぐらい繋いで揚げ凧にするよ」など、まるで厨房の中のような会話が飛び交い、参加者の笑いを誘いました。遠藤さんによると、「夢凧…夢を描いた凧」「収穫…凧の受け取り」「生凧…まだ夢が書かれていない凧」「揚げ凧…空に揚げる凧」とのことでした。イベント期間中、展覧会場前の廊下には、大西市長の願いが描かれた凧も展示されていました。（K・O）

【参加人数150人】

2017.4.15

遠藤一郎《未来龍熊本大空凧》凧あげ

快晴の空のもと、熊本市立城東小学校の校庭で、《未来龍熊本大空凧》の凧あげが行われました。遠藤さんによって、大槌、石巻、釜石、富岡の東北各地で作られた凧と、熊本の凧がつなげられ、合計243枚の凧が、4本の「未来龍」となって大空に舞いました。折しも熊本城では、天守閣の再建が始まり、その未来への希望を感じさせる凧あげとなりました。（A・S）

【参加人数30人】

2017.3.3

特別授業

「亀田誠治さんに何でも聞いてみよう！」

熊本応援イベントとして、音楽プロデューサー・ベーシストの亀田誠治さんをお招きした特別授業を開催しました（司会：今野多九郎さん）。事前に募集した質問に、亀田さんが回答していきます。「今年受験生だがやる気が出ない」「失敗したときの気持ちの切り替え方は？」「ツイッターで亀田さんが「笑福」と毎朝つぶやくのはなぜか？」など、日々の生活から音楽のこと、人生相談、素朴な疑問まで、たくさんの質問が寄せられました。「自分を好きになるには、好きなもので周りをかためること」「笑いが笑いを連鎖する」などのお答えに、亀田さんの現在や過去のエピソードを交えて語られました。そして、途中からは音楽に関する質問へ。「リズムを保つには？」「ベースがかっこいい曲を教えて下さい」という質問には、ベースを手に取り練習方法やフレーズを実演してくれました。「音楽は調和するために生まれてきている」という印象的な言葉と、日々の生活にもつながっていくようなお話に、オーディエンスの皆さんも聴き入っていました。最後は、復興支援についての質問に、亀田さんの思いやりのこもった言葉が心に響きました。参加されていた大西市長より感謝の言葉が贈られ、盛大な拍手の中イベントは終了しました。（Y・M）

【参加人数140人】

主催：熊本市・熊本市現代美術館